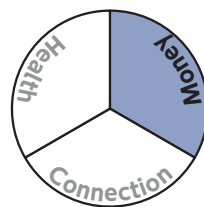


# 景気の悪化で給料はどうなるの？



経済調査部 エコノミスト 奥脇 健史 (おくわき たけし)

## 新型コロナで景気は大幅に悪化、ボーナスに影響も

新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済は大きなダメージを受けました。それに伴い企業収益は大幅に悪化、企業の冬のボーナスの削減なども話題に上がっています。今回の景気の大規模な悪化を受け、給料はどのように動いたのでしょうか。

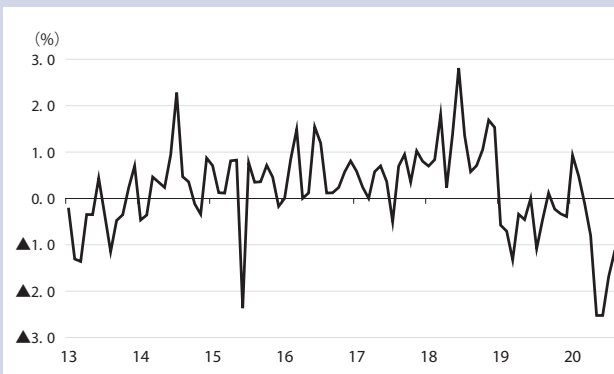
## 給料への本格的な影響はこれから

給料の動向を把握する際に用いられる指標が、厚生労働省から毎月公表される「毎月勤労統計」です。賃金や労働時間、雇用の動きなどを業種別に把握することができます。労働者が受け取る給料にあたるのが「名目賃金(現金給与総額)」で、景気悪化の影響から、足もとでは前年を下回る水準で推移しています(資料1)。

さらに細かくみると、名目賃金は「所定内給与」、「所定外給与」、「特別給与」に分かれます(資料2)。まず、景気の大規模な悪化により残業時間などが減ったことで、「所定外給与」は前年比▲10%を超える大幅な落ち込みとなっています。このように、所定外労働の動向は景気動向に敏感に反応します(資料3)。また、ボーナスについても、経団連の調査によると20年夏のボーナスは前年比▲2.17%と減少、6、7月の「特別給与」も前年比で減少しました。もっとも、ボーナスに企業収益が反映されるには半年から1年程度のラグがあるため、影響は冬のボーナスにおいて本格化すると思われます。そして、所定内給与については、毎年2月から3月に行われる春闘の結果と相関が高く、さらに遅れて景気の動向が反映されます。

名目賃金に占める割合をみると、景気に遅れて動く所定内給与が約75%を占めており、景気の大規模悪化による給料への影響は今後本格化する見通しです。給料の動向はGDPの半分以上を占める個人消費に影響するため、低迷が続く場合には景気に悪影響を与えます。景気の回復は緩やかなものにとどまるとの見通しのなか、今回落ち込みをみせた給料の回復も時間がかかる可能性があります。

### 資料1 名目賃金(前年比)の推移



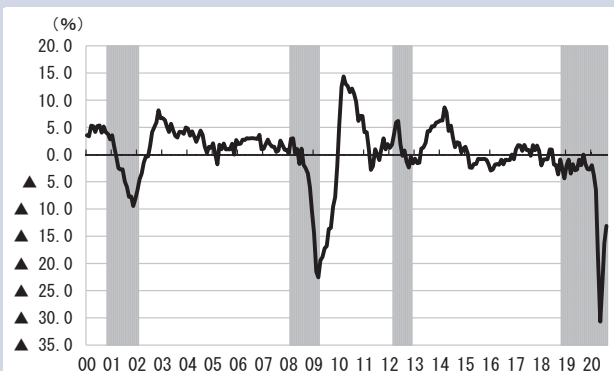
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計」より第一生命経済研究所作成

### 資料2 名目賃金の内訳

名目賃金(現金給与総額)	
所定内給与	基本給に諸手当を加えたもの
所定外給与	時間外手当、休日出勤手当、深夜手当など
特別給与	夏季・年末のボーナス、結婚手当など
景気動向に反応する順番	
所定外給与 → 特別給与 → 所定内給与	

(出所)厚生労働省「毎月勤労統計」より第一生命経済研究所作成

### 資料3 所定外労働時間の推移(前年比)と景気循環



(注)シャドー部分は景気後退期、2018年11月以降は暫定的な景気後退期  
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計」より第一生命経済研究所作成